

## 「フリーター」とはどんなひとですか

### 学生・正社員・そして「フリーター」自身が考える「フリーター」の価値

#### それぞれの意識と傾向で探る

インターネットによる、国内最大級の正社員、派遣、アルバイトの求人・転職情報サイトを運営するディップ株式会社では、自社保有のサイト会員向けにインターネットアンケートを行い、多様化するワークスタイルに対する、それぞれの立場別の意識の違いや傾向について、隔月で「Dip Report」として発信しています。今回は、「フリーター」にフォーカスしてお届けします。

### 学生・フリーター・正社員、それぞれからみた『フリーター』像

“フリーターの定義を知らないフリーター”は8割以上。イメージは全体で「先行き不安」がトップ。

フリーター自身は「フリーターは30代前半まで続けられる」と考えているのに対し、

学生・正社員では「フリーターの限界は20代まで」が6割強～8割強と大多数。

(565人に聞くアンケート結果より)

内閣府の平成15年版国民生活白書によると、2001年のフリーター人口は417万人となっており、学生・主婦を除いた15～34歳の若年人口の5人に1人が「フリーター」と言われています。さらに最近では、「ニート(NEET: Not in Employment, Education or Training)」と呼ばれる、学校などにも属さず働く意欲もない若年無業者の増大が大きな社会問題になっています。このように、若者の就業意欲の低下が着目される中、今回の調査では、学生、フリーター、正社員、それぞれからみた「フリーター」という言葉に対するイメージを通して、「2005年のフリーター像」を探ってみました。

#### < 設問項目 > 学生・フリーター・正社員 属性別

「フリーター」の定義を認識していましたか？

「フリーター」についてのイメージを教えてください。

「フリーター」は、何歳くらいまで続けられるものだと思いますか？

今後(将来)、どの雇用形態を望みますか？

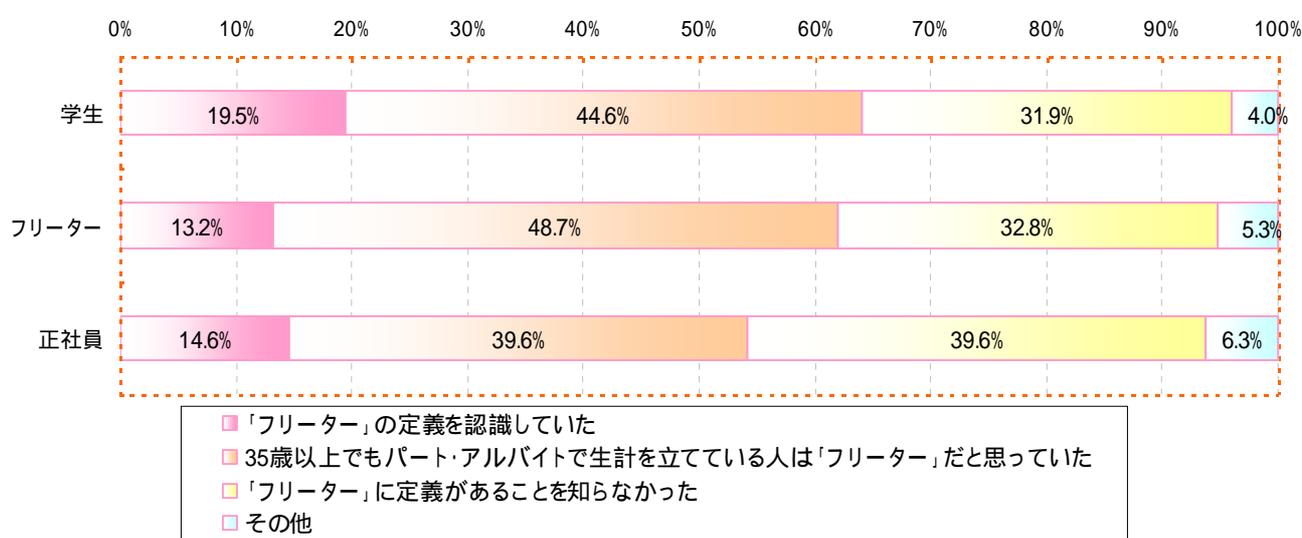
「フリー」と「アルバイター」をつなぎ合わせて1980年代後半に誕生した「フリーター」という言葉は、当初は、「夢の実現のためにアルバイトをしながら経済的自立を目指す若者」といった肯定的イメージの言葉でした。しかし、1990年代以降、景気の悪化とともに新規学卒者の就職率が低迷していることや、就業意識の低下などにより就職しない若者が増加するにつれ、「フリーター」についての社会的イメージも変化してきています。

内閣府の平成15年版国民生活白書によると、1991年、182万人だったフリーター人口は、2001年には約2.3倍の417万人に達しており、UFJ総研の試算では、2010年には476万人とピークに達するとみられています。このように今や学生や主婦を除く若年人口の5人に1人が「フリーター」と言われ、若者の就業意欲の低下とあわせ

てフリーター人口の急増が社会問題と捉えられている中、今回の調査では、学生、正社員、フリーター自身が「フリーター」についてどのように感じているのか、「フリーター」という言葉に対するイメージなど、それぞれからみた「フリーター」像について聞いてみました。

現在、正社員や派遣社員、契約社員として就業していない人に、「あなたの職業は何ですか？」と尋ねた場合、「フリーター」と答える人はたくさんいます。では、その中で、「フリーター」という言葉の定義をきちんと認識して使っている人はどれくらいいるのでしょうか。

- グラフ1(設問)厚生労働省の定義によると、「フリーター」とは、学生・主婦を除く15歳～34歳人口のうち、「パート・アルバイトの仕事をしている人」と「パート・アルバイトの仕事希望している無業者」のことで、あなたは「フリーター」について、このように認識していましたか？(複数選択) -



### グラフ1 設問 「フリーター」の定義を認識しているかについて (グラフ1参照)

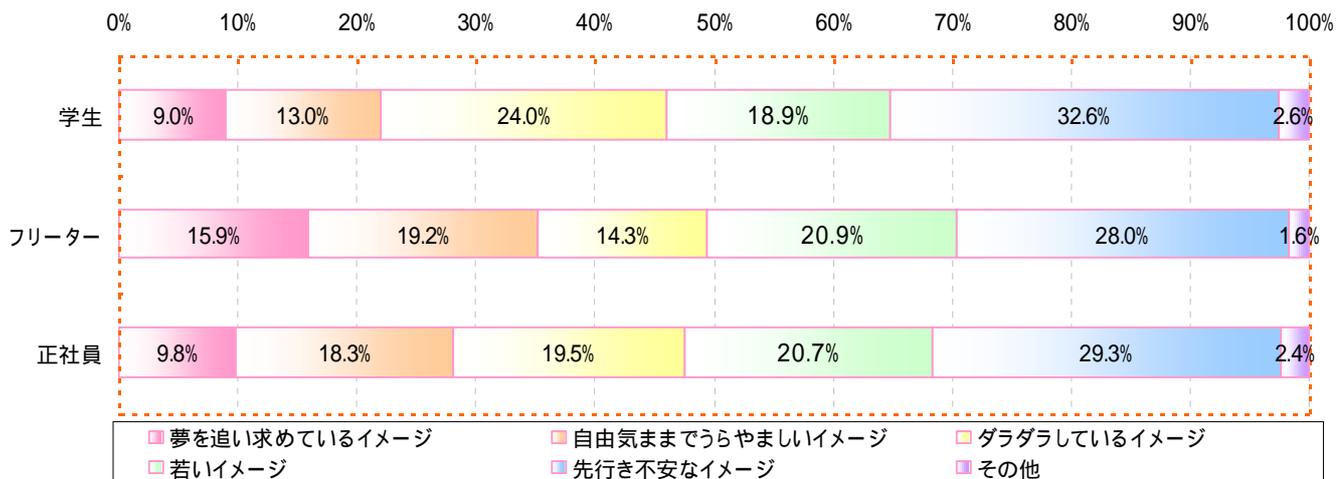
<学生> : 「35歳以上でもパート・アルバイトで生計を立てている人は「フリーター」だと思っていた」が44.6%で最多。以下「「フリーター」に定義があることを知らなかった」31.9%、「「フリーター」の定義を認識していた」19.5%と続きました。

<フリーター> : 「35歳以上でもパート・アルバイトで生計を立てている人は「フリーター」だと思っていた」が48.7%と約半数を占め最多。以下「「フリーター」に定義があることを知らなかった」32.8%、「「フリーター」の定義を認識していた」13.2%と続きました。

<正社員> : 「35歳以上でもパート・アルバイトで生計を立てている人は「フリーター」だと思っていた」、「「フリーター」に定義があることを知らなかった」がともに39.6%と多く、「「フリーター」の定義を認識していた」14.6%と続きました。

「フリーター」の定義を認識しているかについて、全体的に「35歳以上でもパート・アルバイトで生計を立てている人はフリーターだと思っていた」「フリーターに定義があることを知らなかった」の合計は7割～8割以上で、「「フリーター」の定義を認識していない人」が大多数を占めています。中でも、フリーター自身においては「定義を認識していた」人の割合は13.2%と、3つの属性中最も低い結果となりました。また、いずれの属性においても「35歳以上でもパート・アルバイトで生計を立てている人はフリーターだと思っていた」という人が最も多く、「フリーター像」に年齢的側面をみる人は少ないようです。

- グラフ2 (設問 ) 「フリーター」のイメージを教えてください。(複数選択)



設問 「フリーター」のイメージについて (グラフ2参照)

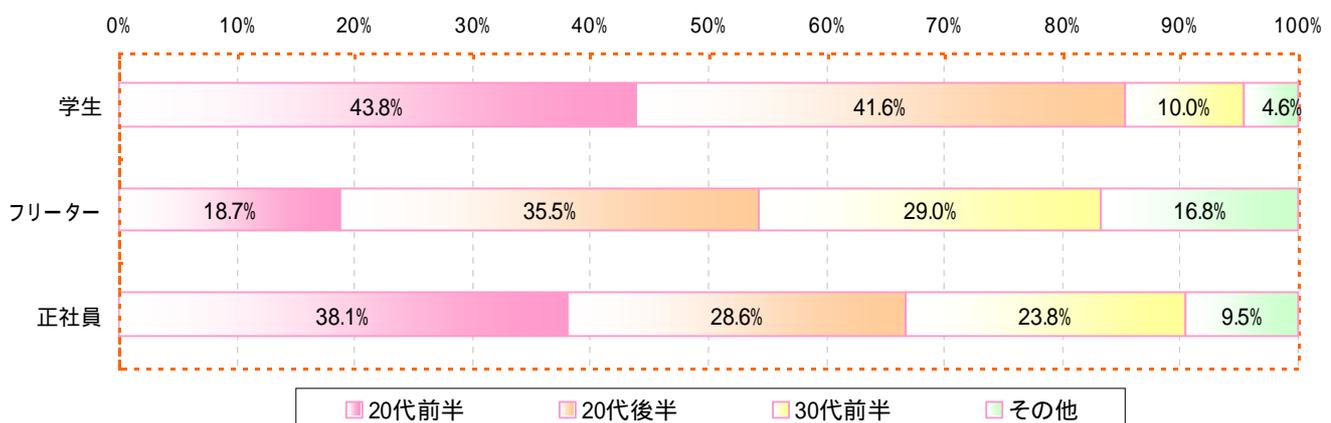
<学生> : 「先行き不安なイメージ」が32.6%で最も高く、以下「ダラダラしているイメージ」24.0%、「若いイメージ」18.9%、「自由気ままでうらやましいイメージ」13.0%、「夢を追い求めているイメージ」9.0%と続きました。

<フリーター> : 「先行き不安なイメージ」が28.0%で最も高く、以下「若いイメージ」20.9%、「自由気ままでうらやましいイメージ」19.2%、「夢を追い求めているイメージ」15.9%、「ダラダラしているイメージ」14.3%と続きました。

<正社員> : 「先行き不安なイメージ」が29.3%で最も高く、以下「若いイメージ」20.7%、「ダラダラしているイメージ」19.5%、「自由気ままでうらやましいイメージ」18.3%、「夢を追い求めているイメージ」9.8%と続きました。

「フリーター」のイメージについて、どの属性においても「先行き不安なイメージ」が最も高く、景気の長期低迷が続く中、「非正規雇用」という就業形態に不安を感じる人が多いようです。特に、学生と正社員においては、「先行き不安」と「ダラダラしている」というマイナスイメージの合計がそれぞれ56.6%、48.8%と高く、「夢を追い求めている」という前向きなイメージは1割弱と低いようです。一方、フリーター自身から見た「フリーター」像については、マイナスイメージの合計が42.3%になるものの、3つの属性中では最も低く、逆に前向きなイメージは学生と正社員より6~7ポイント上回っています。このことから、就職難といわれる今時の学生や正社員から見た、いわゆる社会一般の「フリーター」像と、フリーター自身の「フリーター」に対するイメージには多少の開きがあるようです。

- グラフ3 (設問 ) 「フリーター」は、何歳くらいまで続けられるものだと思いますか？ (択一選択)



**設問 「フリーター」は何歳くらいまで続けられると思うかについて（グラフ3参照）**

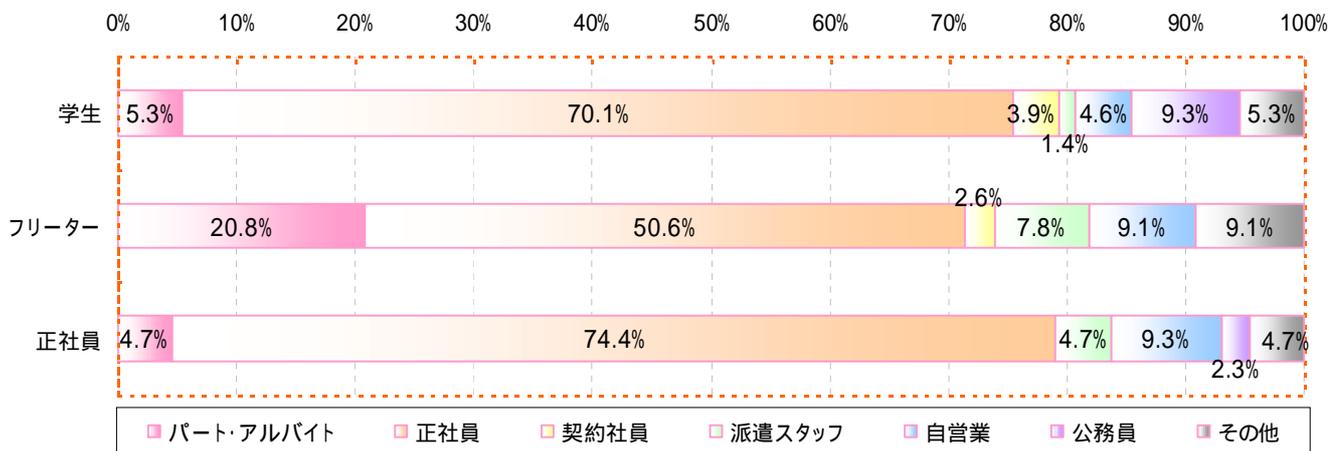
<学生>：「20代前半」が43.8%、「20代後半」が41.6%でともに多く、以下「30代前半」10.0%と続きました。

<フリーター>：「20代後半」が35.5%で最多。以下「30代前半」29.0%、「20代前半」18.7%と続きました。

<正社員>：「20代前半」が38.1%で最多。以下「20代後半」28.6%、「30代前半」23.8%と続きました。

「フリーター」は何歳くらいまで続けられると思うかについて、学生、社会人ともに「20代前半」が最多。2番目に高い「20代後半」とあわせると7割～8割以上で、“フリーターは20代まで”と考える人が大多数のようです。それに対し、フリーター自身の回答は、他の2つの属性で最も少なかった「30代前半まで続けられる」と考える人が約3割と最も多くなっています。

**- グラフ4（設問）あなたは、今後（将来）どの雇用形態を望みますか？（択一選択）**



**設問 今後（将来）、どの雇用形態を望むかについて（グラフ4参照）**

<学生>：「正社員」が70.1%で最も高く、以下「公務員」9.3%、「パート・アルバイト」5.3%、「自営業」4.6%、「契約社員」3.9%、「派遣スタッフ」1.4%と続きました。

<フリーター>：「正社員」が50.6%で最も高く、以下「パート・アルバイト」20.8%、「自営業」9.1%、「派遣スタッフ」7.8%、「契約社員」2.6%と続きました。

<正社員>：「正社員」が74.4%で最も高く、以下「自営業」9.3%、「パート・アルバイト」、「派遣スタッフ」4.7%、「公務員」2.3%と続きました。

最後の質問である今後（将来）どの雇用形態を希望するかについて、学生と正社員においては、「正社員」を希望する割合が7割以上を占め最多となりました。それに比較し、フリーターにおいては、正社員志向は50.6%となっており、正社員以外の働き方を自ら選ぶ割合の高さが目立ちます。

雇用形態が多様化する中、個人がどういった働き方を選択するかは、景気の後退による企業の正社員雇用の抑制など、さまざまな外的要因の影響を受けながらも、最終的には“個人の意思”や“労働意欲”で決定される部分が多いのではないのでしょうか。

最近では、若年層の“働く意欲の低下”が、労働力の先細りにつながり、将来的な日本経済の成長力に負の影響を与えることが懸念されており、地域レベルで、若年層の労働力人口減少に歯止めをかけるべく、就職支援セミナーの開催や職業訓練制度の利用券配布など、さまざまな対応策が講じられています。しかし、今回の調査では、学生やフリーターといういわゆる若年人口である彼らの“働くことに対する考え方・意欲”は社会が問題視するほど低くないようです。

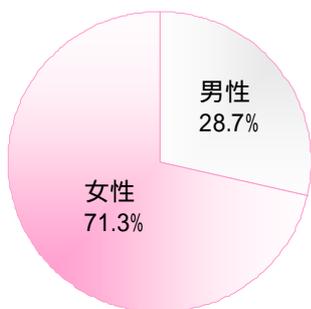
雇用する側としては、「正規雇用」か「非正規雇用」であるかに重点を置くのではなく、若者が“目的意識”や“将来に対する明確なビジョン”を持って就業できる雇用環境を整えていくことが、今後の労働市場の発展につながるのではないのでしょうか。

当社では、正社員の転職情報、人材派遣情報、アルバイト情報など総合求人情報サービスを展開しており、業界 No.1 を誇る求人情報掲載件数に今後も力を入れていくとともに、求人情報サイトの認知度アップとたくさんのユーザーのサイトへの誘導を図ることで、ひとりでも多くの人に“ベストマッチ”の仕事と出会う機会を提供していきたいと考えております。

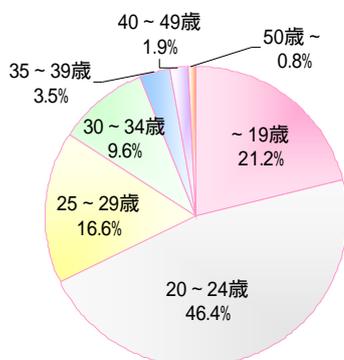
### < 今回のアンケート概要について >

1. アンケート方法: インターネットサイト(バイトルドットコム)上でのユーザーアンケート
2. アンケート期間: 2005年1月11日~2月1日
3. 有効回答者数: 565人

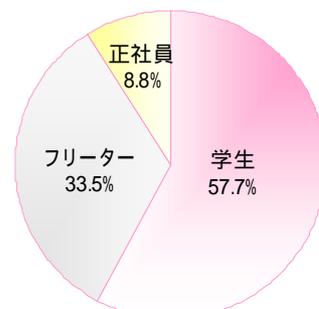
【男女比】



【年代別構成比】



【就業形態別構成比】



Dip Report で得た情報、集計結果を第三者に公開する場合には下記の表示をお願いいたします。

『総合求人情報サービスを行うディップ株式会社が発表した Dip Report による』

Dip Report のデータをホームページでアップしております。詳しくは下記 URL でご確認ください。

<http://www.dip-net.co.jp/news/trend.php>

dip [www.baitoru.com](http://www.baitoru.com)

バイトルドットコム

「バイトルドットコム」について <http://www.baitoru.com/>

「バイトルドットコム」は全国 10,000 件\*を超えるアルバイト情報を掲載している、日本最大級のアルバイト情報ポータルサイトです。情報は毎日リアルタイムで更新され、携帯電話主要3キャリア (i-mode、EZweb、Vodafone live!) の公式サイトとも連動しているため、ユーザーはいつでもどこでも求人情報を検索して応募することができます。(\*2005年2月24日現在)

ディップ株式会社 会社概要 URL: <http://www.dip-net.co.jp/>

本社所在地: 〒106-6032 東京都港区六本木 1-6-1 泉ガーデンタワー 32F

設立: 1997年3月

代表者: 富田 英揮 (代表取締役社長)

資本金: 9億8,770万円

従業員数: 172名 (2005年1月末現在)

事業内容: インターネットによる求人・求職情報提供サービス

2004年5月東証マザーズ市場へ株式を上場

この報道資料のお問い合わせ先 >

ディップ株式会社 広報担当 : 田淵みよこ

TEL 03-5114-1191 / e-mail : [info@dip-net.co.jp](mailto:info@dip-net.co.jp)